

もう一度、プレーボール。

それは、普通のメールから始まりました。

「私達は、福島県南相馬市の高平シーサイドという少年野球チームです。今回の震災で、私達の住む南相馬市、特に海岸沿いは大きな被害を受け、選手2人が津波によって若い命を奪われました。さらに原発から30キロ圏内のため地元に住めなくなり、残った選手13名の大半が和歌山、埼玉、宮城、千葉、新潟、山形などの県外に避難し、子供達はバラバラになつてしまいました。チームは4月からの新シーズンに向けて、2月に新しいユニフォームを作ったばかりでした。子供達は凄く楽しみにしていました。しかし、3月11日の震災でユニフォームを保管して下さっていた保護者宅が津波の被害を受け、すべて流されてしまいました。大切な友達が突然一人もなくなり、ユニフォームを二度も着ることができず、残った友達とも別れなければならない子供達の悲しみは、とても言葉で言い表せるものではありません。今年、南相馬市で予定されていた大会も、すべて中止になりました。原発の影響でチームとしての活動はもうできません。でも、このままでは、6年生が一度も自分のチームのユニフォームの袖を通せないまま卒業する可能性があります。私は指導者として、そんな子供達が可哀想でなりません。」

今年、チームとして野球ができないならば、せめて一度だけでもいいのでみんなで集まり、揃いのユニフォームで野球をさせてやりたい心境です。なかなか文章ではうまく表現できませんが、もし可能であれば、プロ野球28会のお力をいただけませんか？

平成23年 6月6日 福島県南相馬市少年野球チーム 高平シーサイド コーチ 門馬弘一

プロ野球28会は早速、門馬さんに連絡を取りました。

そしてチームとして最初の夏合宿を、7月下旬に栃木県真岡市で計画していることを知りました。「日だけでいいから、揃いのユニフォームを着て野球をさせてあげたい。」

そんな門馬さんの思いに共鳴した28会は、ユニフォームの協力を得て、一枚の写真を元にユニフォームを忠実に復元することにしました。7月23日、夏合宿で高平シーサイドの子供達は、久しぶりに再会しました。

子供達は保護者も互いの姿を目にした途端、顔をクシャクシャしながら抱き合つて喜びを爆発させました。既にユニフォームは完成していましたが、門馬さんは「サライズを渡したい」と、子供達にはまた内緒にしていた。そんな門馬さんへのサプライズとして、その日岩手で少年野球大会の開会式に出席していた中畑清28会会長が、急遽合宿地に駆けつけました。

やがて日が暮れたころ、バラバラのユニフォームで練習を終えた子供達と向き合った中畑会長は、「一人ひとりにユニフォームを手渡しました。状況が飲み込みにくい子供達の顔には、驚きと喜びが入り混じった複雑な表情が様に浮かんでいました。そして最後に、天国に召された2人の子供達が天国でもずっと野球を続けられるように、2人のご両親に中畑会長から——田中マア君のサイン色紙を添えて——一枚ずつユニフォームが贈られました。」

さすがにこのシーンでは、その場にいた全員が涙をこらえることができませんでした。楽天的な大ファンだった2人は、小学校1年生と2年生のとても仲の良い兄弟でした。

翌日、高平シーサイドは最初で最後の合宿を終えます。揃いのユニフォームを着た子供達は泥だらけになってボールを追い、保護者も混じった親子試合では笑顔と歓声が絶えませんでした。「6年生は今日が最後かもしれない。でも、みんな必ず南相馬に戻ってきて、またみんなで一緒に野球をやらう！」

その後、28会には、子供達からの手紙がポツポツと届くようになってきました。あれから9ヶ月、南相馬の子供達も野球をやつていたグラウンドは、多くが仮設住宅や瓦礫置き場へと姿を変えています。わずかに残ったグラウンドでは土壌汚染が進み、表土をはがして新しい砂を入れるため、「ふにゃふにゃで、とても野球ができる状態ではありません」と門馬さんは言います。

「放射線量の低減除染作業が続く限り、南相馬では野球ができないので、いまは週末だけ遠くのグラウンドまで行つて練習している状況です。それでも、監督として12月から部員6名の高平シーサイドを率いることになった門馬さんには、大きな夢があります。『あの日、すべてが変わってしまいました。とても多くのものをなくしてしまいました。でも、私は信じています。またみんなで高平シーサイドとして野球をやれることを。あの子達と野球がしたいんです。』」

プロ野球28会には、いまま高平シーサイドしながついています。



がんばろう! 日本 がんばろう! 東北

プロ野球28会は、被災地の野球少年たちを応援しています。 プロ野球28会東日本大震災被災地支援サイト

プロ野球28会とは

プロ野球28会は、中畑清(元巨人)、落合博満(前中日監督)、田尾安志(元東北楽天監督)、梨田昌孝(前日ハム監督)、真弓明信(前阪神監督)、岡義朗(前阪神コーチ)など昭和28年度生の元プロ野球選手総勢82名の親睦団体です。1990年設立後、皆様のご理解とご協力をいただきながら、全国各地で少年野球教室や各種のチャリティーイベントを通じ、微力ながら青少年の健全な育成及びスポーツの発展、さらには社会貢献に務めることを目的として、定期的に活動しています。



プロ野球28会の被災地支援活動について

東日本大震災の被災地、特に甚大な被害を受けた沿岸部では、練習場が仮設住宅になってしまったチームもあれば、野球用具すべてが津波に流されてしまったチームもあります。大会の延期や中止も相次ぎ、放射能汚染に見舞われた地域では、今年度の少年野球大会すべてが中止に追い込まれています。私たちプロ野球28会は、そんなつらい境遇の中でも明日への希望を失わずに野球を続ける子供達に、野球用具を贈り続けています。そしてまた、そんな子供達の元を訪れ、少年野球教室や炊き出しや交流会などを通して肌と肌で接する機会を大切にしています。子供達が「元気」になること。「夢」を持つこと。プロ野球28会は、これからも被災地の子供達を応援していきたいと考えております。皆様方のご理解、ご協力を、よろしくお願い申し上げます。子供達が、野球で元気になるために...

被災地の少年野球チーム支援の募金にぜひご協力ください!

【お振り込み口座】
銀行名 三井住友銀行
支店名 六甲支店(店番421)
口座番号 普通4358352
口座名 ニッパチカイ東北被災地義援金(ニッパチカイトウホクヒサイチギエンキン)

募金受付中

プロ野球28会 がんばろう東北! 東日本大震災 義援金募金WEBサイト

がんばろう東北!
http://www.joe72.jp/28ers-bokin/

東日本大震災復興支援イベント

「プロ野球28会 チャリティーイベント in 西神 2011」

主催:プロ野球28会 チャリティーイベント in 西神 2011 実行委員会
協力:(株)神明 流通科学大学 (株)アシックス 神戸 西神オリエンタルホテル



トークショー&チャリティーオークション

プロ野球28会による「ここでしか聞けないベースボールトーク」が炸裂!

写真・中畑・岡梨田・田尾はか出演

2011年12月11日(日) 4階宴会場「舞臺の間」

神戸 西神オリエンタルホテル http://www.seishin-oh.co.jp/
ご予約・お問い合わせ... TEL. 078-992-8127(受付時間)
E-mail: ba@seishin-oh.co.jp

お一人様 20,000円
お子様 8,000円



プロ野球28会 少年野球教室
※会場は駐車場の敷地内での公共交通機関をご利用下さい。 ※雨天中止(後断)

おいしいお米の神明はプロ野球28会の東北被災地支援活動を応援します。

http://www.akafuji.co.jp/